

## 図書館員のひみつの本棚 第191回

今月は、子どもたちが、お人形へ並々ならぬ愛情を持っていることが伝わってくる絵本をご紹介します。

### 『かしこいビル』

ウィリアム・ニコルソン／さく まつおか きょうこ，よしだ しんいち／やく  
ペンギン社 1982年 ¥1000（税別）

#### <お勧め年齢>

乳幼児★★★ 小低学年★★☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆  
高校☆☆☆ 一般☆☆☆ （★が多い年齢の子どもにお勧めです）

#### <本の紹介>

女の子のメリーは、おばさんから、おうちへおいでとのお手紙をもらい、遊びに行くことに。トランクに荷物を詰めていたら、お気に入りの人形のビルを入れ忘れてしまい…。

トランクに物を詰めるものが、メリーにとって思い出のある品々のようで、何とか詰め込もうと苦心して、作業に夢中になり、大事なものを忘れてしまう、その失敗が子どもらしく、思わず微笑んでしまいます。

#### <子どもに手渡す時のポイント>

ストーリーがわかりやすく、全文ひらがなとカタカナで場面ごとのセリフが短く、平易な言葉遣いで、幼児から楽しめます。

各場面の絵に遊び心が感じられ、おばさんからの手紙の上にビルがしゃんと立つ様はどこか誇らしげだったり、トランクの下敷きになったビルは苦しそうな表情になっていて、各場面で細かい描写から発見する楽しみがあります。

解説によると、この本は、作者の娘メリーに向けた作品で、描かれているものは現実のメリーの持ち物なのだそうです。子どもたちが読むときにも、自身が大切にしているものを想像しながら読むとより楽しめます。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

